静かな病院へ

天領本院 悩みの中央道路

天領本院のド真中を真直ぐ貫いている道路については、これまでいろいろと苦情が積っているが、さいきんこの道路をツブしてここは病院の構内にしたら、そして別に道をこしらえたらという気運が高まっており、すでに関係者のあいだでは道路や土地の問題で市当局地主などに瀬踏みしているまでに発展している模様である。

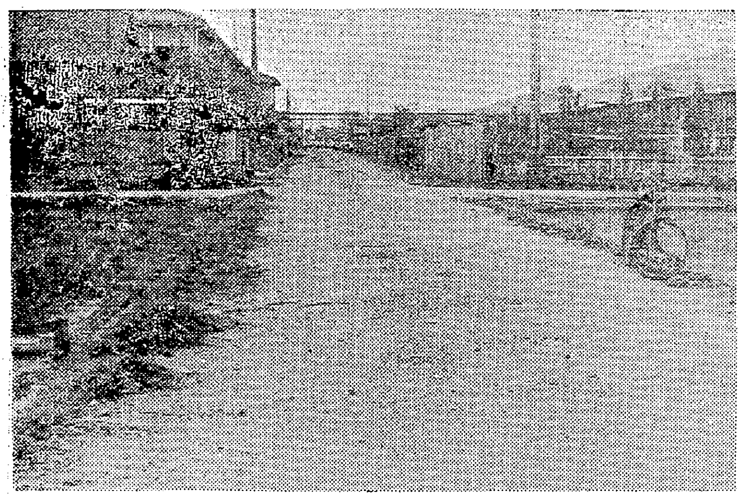
高まる苦情

当初予定されていた天領の総合病院は、三階建ぐらいの大規模なものだつたが、ドツヂラインなどそのころの政策や金融引締めの影響を受け大巾な変更をみて、最初の計画よりすれば現在のものは大きく異つたものとなつた。その結果つぎつぎと継ぎ足すような結果となり、道路を狭んで現在のような不合理な病院ができ上つたものである。

病院の真中を通る道路は市の道路で、病院建設当時の都市計画によると諏訪神社から下手の小川開に至る間の貫通道路となつており、これを勝手に変えることは問題があるのではないか。とにかくこの道路のお陰で塵埃、振動、騒音という病院に一番苦手な悪要素を入院患者はいうに及ばず、手術、診療に与えているし、影響は大きなものがあり、大きな不満の一つとなつている。

まず道路を構内にして静かなゴミの舞わない病院にしたらというのが皆んなの願いのようだ。この道路を改装して或は災害発生時の退避所とすることもできるし、昼間はリクレーションなど患者の簡単な運動ができるようなものにしたら見違えるような病院になつて、心よい療養ができるようになるというのが一致した希望である。

とにかく一時はわざわざ便利のよいためと昭和二十八年ごろバスが通るように申請して、バスも通つていたが、あまり被害が大きいので驚いて、昨年からバスは南方に迂回してもらうといういきさつもあり、場所が場所だけに大きな悩みの種となつている。


（天領病院を両断している市道路）

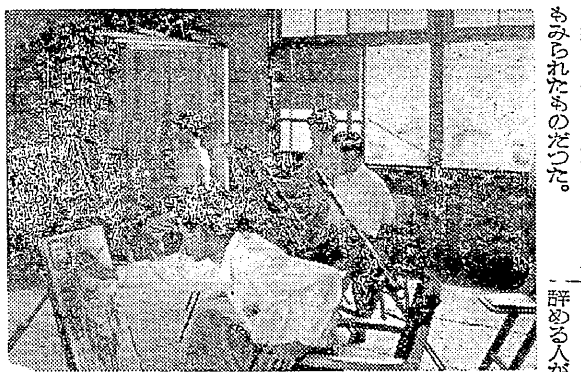
デッサンに励む

美術部 坑内の疲れも忘れて

三川支部の美術部が発足して、はやくも足かけ三年経つた。まず絵の基本からミツチリ勉強しようとデッサンと取組み、毎週日曜日の午後から組合事務所二階で五不、村山両氏を中心に以来、ずつと今日までお互いが研究しあつて絵の勉強に励んでいる。

現在、メンバーは十四、五名いるが、坑内に現場を持つという特殊な勤務のため三番方や二番方で出席ができない人もあり、全員揃つて顔を合せるということは殆どないといつてよいほどだ。

第一期、第二期、第三期と年を経るにつれて、会員も少しずつ膨れてきており、それだけ同美術部がみんなに認識されてきたのだろう一時は主婦の人たちも熱心に炭筆を握つてモデルと取組んでいる姿もみられたものだつた。



サークルの運営はなかなか難しいといわれている。とくに美術部などといえば初めは好奇心から入つてみようと入るが、永続きせずに辞める人が多く、二、三回で行詰つてしまうのが多いなかで、とにかく三年近くも営々として続けられているということは、もう根無し草ではなく、立派な根を生やしてきた証拠だろう。

この間、すでに美術展も二、三回開催し、炭鉱文化に大きなテコ入れをしている。

また、阿蘇あたりまで集団で描きに行つているほどである。

来る二十七日にもデツサン展を予定しておりなかなか意欲的な面を示している坑内から上つた三番方の人など眠い眼をこすりながらの勉強だ。しかしみんなどの顔をみても苦しそうな顔は一つもない。楽しそうに筆を動かしている。

絵というものはだれにでも描けるものであり、画いているうちに人間性の形成にしらずしらずのうちに大きな影響があり、生活に何ともいわれぬ潤いがもたれる。ズブの素人だからと遠慮せずにどしどし入会して下さいと美術部ではいつている。

なお、例年は夏の暑いさかりはデツサンも休会していたが、今年は休まず続けて行きたいし、日曜以外の日でもできる限りやつて行くといつていた。

【写真＝三川美術部の練習風景】

辨当のオカズ

「お母さん今日も弁当のオカズはチクワね」今年新制中学の一年に入つた長女が或る朝、チクリと私に痛いことをいいました。

まつたく、この数日というものはいろいろと料理の趣をかえて、弁当をつめてやろうと思い思い、つい手軽なオーダメードのチクワに走つてしまつたのです。

いろいろと頭をナヤマス毎日の生活の連続ですけどその中でも私にとつて一番大きく頭におおいかぶさつてくるのは毎朝の弁当のことです。

主人、長女、長男と毎日三つもの弁当をつくつていると、毎日々々品をかえて詰めてやりたいとは思いながら、つい朝の目の廻るような忙しさの中に身をおくと、そう弁当ばかりにもかまつておられず、結局手軽にできるものに走りがちなのです。

夫は毎日だまつて持つて行きますが、時にはやはりブツブツ云うことがあります。このごろは私の苦労を知つたものか余り小言もいいませんがそういうときが返つて私も済まないと気の毒でなりません

この間も、隣近所の人たちと二、三人寄つて女ばかりの馬鹿話をやつていましたが、結局話の行すえは世帯のヤリクリに行きつくのが私たちグループのいつものことです。

やはり私ばかりではなく、みんなが弁当のオカズに頭を使つているのを知りホツとしました。同時によし明日から子供たちが不平をいわぬ楽しい弁当にしようと決心する私でした。

四山　一主婦

酒井氏（政治局）も参加

熊本県の訪中使節団

今秋出発の予定だつた熊本県代表団の中国訪問使節団は、中国側の都合により繰上げて、来る二十七日熊本駅発で上京、三十日羽田発空路香港へ向うことになつた。

このため去る八日派遣団の最終選考が行われ〃熊本県文化経済訪中使節団〃として田代由紀男氏（県議運営委員長）以下十名が決定された。

一行中に三鉱労組政治局員酒井善為氏（県議、三川支部）も加わることに決定した。

なお一行は香港経由北京に入り打合せののち中国一円を二十五日間にわたつて巡る。今回の編成を第一次使節団とし、坂田昌亮（荒尾市長）西郷一恵（医師）両氏らをはじめとする第二次使節団が明春訪中の予定である。

熊本県会、市会、荒尾市会などでは、さきに政治局員の酒井氏や革新派の人たちの提案で「中国との国交回復」の決議案を可決するなど、新しい動きを示していたが、こういう動きが中国側から、県代表団の派遣要請を促進させた一つの理由にもなつているといわれるこんどの第一次派遣団も中国の国慶節（今秋）を目途に計画されていたのだつたが、先方の都合で繰上げになつたものである。

主婦の新聞

三作主婦会で決まる

三作支部主婦会ではこんど主婦会の手になる「主婦会便り」の発行が去る十日の会議で決定され、発行されることになつた。

主婦会関係の機関紙は、三作と同じく四山でも計画されているし、ここも発行が決定されたので、三作、四山の二カ支部で発行されることになり、大きな期待がもたれている。

さる五月、新執行部発足の当時から主婦の手による機関紙を発行したい、ということは考えられていたのだつたが、ようやく諸準備がなりいよいよ発行へと踏切つたものである。

スタイルはタブロイド判で、こんご毎月発行される予定である。

盤上で競う腕

小濱北で囲碁、将棋

さいきん囲碁、将棋、連珠大会が各地域、職場でさかんに行われており、この道の研究も日毎に盛況をくわえている。

三川支部小浜北地域分会も七日（日）社宅内の集会所で午前九時から囲碁、将棋大会を開催した。

婦人もまじえた腕自慢の間で盤上に火花を散らしての大熱戦が延々午後五時半ごろまでつづいて闘いが行われ、つぎの成績で終了した

○将棋

一位　西川提逸　二位　大塚義夫　三位　本　町子　四位　山田清一　五位　松野正淑

○囲碁

一位　津留国雄　二位　田中義則　三位　大久保藤八　四位　宮原

【写真＝小浜碁将棋大会】

気持よい浴場を

大谷で主婦が提唱

浴場をきれいにしましようの運動はさいきん各社宅のあいだでさかんになつてきた。

たとえば、宮浦の馬渡社宅では主婦会の提唱で手拭をフロの中につけない運動がはじめられたが、いまでは温泉のようにきれいになつたと喜ばれている。

こういうとき、緑ガ丘大谷社宅浴場の美化運動も主婦会の提唱で行われているが、まず浴場衛生の確立をはかろうと(1)洗髪禁止、(2)血綿使用時の禁止(3)浴槽内での子供の鼻とり、(4)幼児の肌着使用禁止、(5)入浴時の下駄の踏替えの五悪を追放して、気持のよい浴場にしようということになつた。

このため、主婦会では前記の五悪を追放するために、有効な標語を広く会員から募集することになり約七十四項目のそれぞれ自慢の標語が集められ、組合本部で選考のうえ十項目が選ばれた。

こんど主婦会ではこの標語を連日浴場内に掲示して衛生観念を高めて、みんなが気持よく入れる浴場にしようと意気込んでいる。

なお応募中より選ばれた標語は

1洗髪は他人が嫌がる真似たがる

2心がけきれいに残るしまい風呂

3きれいな浴場明るい笑顔

佳作　洗髪は病菌やつたりもらつたり

洗い髪やめてさつぱり共同浴場

公徳心ある人洗髪しない人

髪洗いおちる汚れはうわべだけ

幻燈に大喜び

お蔭で会場が静か

港務支部平井主婦会の総会が去る十日行われたが、この総会に出席した組合の教宣部の手で、幻燈会が行われ、お蔭で総会がスムースに行われたと大変好評をうけている。

平井にかぎらず、各地区の主婦会の会議によくみられることは、主婦のなかに子供を会場に連れてくる人があり、子供たちも会場では退屈なため走りまわつたり泣いたりして、とかく会場が騒々しくなりがちであつた。

お母さんたちも気をつかつていろいろなだめたり、すかしたり、怖い顔をして苦労している姿が気の毒なくらいである。

主婦会の会議に子供はつきものである。

それだけにまた主婦の人たちの苦労が思いやられるのだが、この日総会に教宣部長と小玉部員が出席したが小玉部員ははじめての試みとして会場で子供たちだけを集めて幻燈会をやつたものだつたが、子供たちも大喜びならお母さんたちも気を散らさず真剣に会議ができたと大喜びの呈であつた。教宣部としては、こんごこの種の会議のときには、紙芝居でも戸外でやつたらどうだろうかといつている。

文芸募集締切迫る

素人大いに歓迎

△**創　作**　四百字詰十枚以内、選者＝野間宏、賞金入選一席一千円、二席七百円、三席五百円

△**詩**　一人一篇、選者野間宏、賞金入選一席五百円、二席三百円、三席二百円

△**短　歌**（題＝雲）一人二首、選者＝岩本宗二郎、賞金天三百円、地二百円、人百円

△**俳　句**（題＝炎天）一人二首、選者＝吉岡禅寺洞、賞金右同

△**川　柳**（題＝踊り、裸）一人二首、選者＝栗原慶夫、賞金右同

△**児童綴方**（題＝旅行）編集部選、四百字詰二枚以内賞品進呈

△**感想文**（題＝自由、主婦も含む）編集部選、四百字四枚、賞金一位五百円、二位三百円、三位二百円

△**写　眞**（題＝自由）大きさキャビネ、一位五百円二位四百円、三位三百円、其他各種佳作も薄謝進呈

※締切七月三十一日

※宛先　三鉱労組本部「みいけ」編集部及び各支部教宣部

楽しい七夕祭

檜町のこども会

「七夕祭」の七日、三川支部檜町こども会のよいこたちは楽しい祭りを行つた。集会所で午前七時ごろからとりかかり、赤青色といろとりどりの色紙にかかれた七夕の字がひらひらと風にな弄られながら、十時ごろ緑ガ丘の一角に七夕竿がたてられた。

なお、同こども会では夏休みのリクレーションの一つとして、丈夫な体をつくり、共同生活に馴れるための訓練として、小岱山でのキャンプが計画されている。

割引通用館

今後は證明書利用

いままで使つていました映画割引券が、こんど新しく証明書制に切換えられて、皆様全員に配布されましたが、こんごはこの証明書で映画割引が行われることになりました。従来は大牟田、荒尾両市の映画館でしか通用しませんでしたが、こんど証明書制の切換えとともに、通勤者の散在する各地区の映画館とも交渉をはじめた結果、つぎの各館で通用できるようになりましたので、利用して下さい。

○大牟田、荒尾の全館

○長洲町、玉名市、南関町の各館

○高田村の岩田劇場

なお瀬高、柳川、大和町、山門郡舞鶴劇場の各館とは現在交渉中ですが、十五日ごろに判明することになつています。

また荒尾の一丸館とも交渉しましたが、同館が低額料金のためここは通用できません。

ぞくぞく発行

「小黒板や」「40分会

さいきん、地域職場の機関紙づくりが活ぱつになつているが、こんど新たに三川支部の四十分会（保安、発破分会）が職場新聞を発行七月十日に第一刊を刊行した。また緑ガ丘檜町分会のこども会でも「小黒板」というこども新聞を七月四日に発行、こんごつづけて発行することとなつた。

旅券獲得めざして結団式

モスクワの第六回世界青年学生平和友好祭に参加する日本代表五百名は、七月五日午前十時半から東京・芝公会堂に勢揃いして結団式をあげた。まず代表委員平沢栄一氏（全青婦）が「この結団式は全員の旅獲得大会である」とあいさつ、国際審査委員関鑑子、世界祭典来賓風見章、総評副議長今村彰の各氏らが激励のあいさつをした

結団式終了後代表は手わけして外務省や政党、各団体などに旅券交付について陳情した。